

報告

37th ESICM (European Society of Intensive Care Medicine) Annual Congress の参加報告

川副友

国立病院機構仙台医療センター 救急科医長／救命救急センター長

(2025 年 9 月 28 日受稿、2025 年 9 月 28 日受理、連絡先：川副友・仙台医療センター)

この度、国立病院機構仙台医療センターの海外学会参加に対する助成を受けて、スペイン、バルセロナで開催された 37th ESICM (European Society of Intensive Care Medicine) Annual Congress (ヨーロッパ集中治療医学会) に参加させていただきましたので内規に従って、その報告をいたします。

今回で ESICM には 3 度目の参加になります。前の 2 回は 2015 年 (イタリア、ミラノ)、2016 年 (オーストリア、ウィーン) に以前の臨床研究 (DESIRE RCT trial) の結果¹⁾を発表しました。その後、2019 年から準備して実施した多施設前向きコホート研究である BEAT-SHOCK registry の主結果²⁾を発表するために、この度参加してきました。前回ミラノに行った際にはカバンを盗まれ PC もパスポートも家族の写真が溜まったデジタルカメラも失い、散々

な思いをしましたが、今回のバルセロナは 10 月のさわやかな気候と (ミラノよりは) 治安のよさそうな街の空気感にとっても安心感を感じられて、よい気分で行ってこれることができました。

今回の旅の仲間は、ずっと共に研究をやっている和歌山県立医科大学救急集中治療医学講座の宮本恭兵先生 (写真 1) でした。彼とは前の RCT の時からともに汗をかいてきた 15 年以上の戦友で、ESICM にもいつも一緒に参加してきた気心知れた仲です。現地の空港で待ち合わせして、帰りの空港で別れるまでともに行動しました。自分たちの発表 (写真 2) といくつかのシンポジウムやメインセッションを聞いた他は会場を離れ、いくつかの観光にも行かせていただきました。旅の詳細は省きますが、サグラダファミリア、グエル公園 (ガウディの建造



写真 1 和歌山県立医科大学 宮本恭兵先生とホテルで朝食



写真 2 37th ESICM Annual Congress で発表する著者

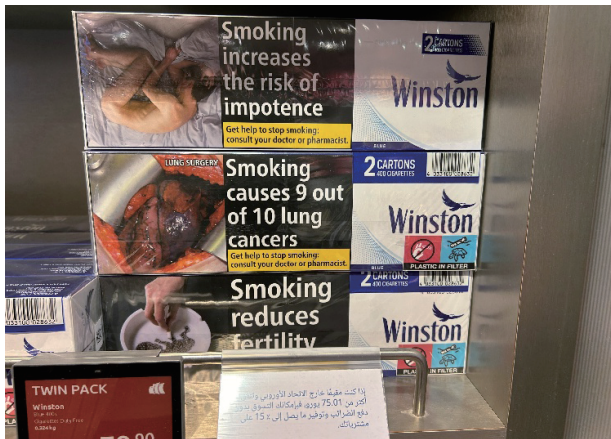


写真3 ヨーロッパのたばこのパッケージ



写真4 ピカソの絵画（キュビズム）

物)、ピカソ博物館、フラメンコショー、歴史的な建造物からなるサンパウ病院、バルセロナ博物館、モンジュイック城、サンタエウラリア大聖堂など、日本と違う文化や新たな感動に触れ、平素の疲れをリフレッシュさせていただくこともできました。

特に思い出されるのは、円安の影響もあって学会参加費の高騰、ヨーロッパのたばこのパッケージのグロテスクな写真、そしてピカソの絵を見てふと思ったこと、です。円安はインバウンドの観光客の話でもよく聞きますし、身近なところでは海外の論文の掲載費（Article Processing Charge）などでも30～45万円（2～3000ドル）かかったりしてびっくりしますが、ESICMの学会参加費がなんと18万円（1000ユーロ）と目が飛び出るほど高くとても驚きました。あまりに学会参加費や旅費が高く、助成金からは学会参加費だけを助成いただくことしかできませんでした。

また帰りの空港でお土産用のたばこのパッケージを見つけましたが、その写真が日本では考えられな

いくらいネガティブな写真だったので驚きました（写真2）。法律で喫煙の警告イラストを載せることが義務化されているのだそうですが、あまりにグロテスクでびっくりしました。政治が国民の健康を守る（医療費を抑える）ことにストレートなこと、方法論もストレートであること、この写真を見てもなおたばこを買う人がいるのだと人間の愚かさなどを同時に感じたものです。

最後にピカソの絵をみているときに、ふと考えたことがあります。ピカソは様々な角度で様々な人間模様を繰り返しデッサンする中で、いろんな角度からのヒトやモノを二次元に同時に描くという作風（キュビズム）を生み出しました（写真3）。しかしその絵を見て、ふとこのキュビズムこそが我々のそれぞれの見ている世界を象徴しているのだと妙に納得できたのです。我々は個々の経験に基づいたいびつな世界感や感覚を持っており、誰一人として完全に同じ世界感を共有できる人はいないし、常に正解が見えている人はいない。例えば研究成果であ

るエビデンスも相当いびつな解釈をお互いに主張しあっているのだらうな、と。それを抽象的に絵にすると、こうなるのではないだろうか、自分の研究成果をまとめるため苦労した後だったからでしょうか、しっくりと腑に落ちたことを覚えています。

本助成金のおかげで、学会参加だけではなく、上記のような貴重な経験をすることができ大変感謝しています。特に円安で海外に研究成果を発表する際の金銭的ハードルは以前よりも高くなっています。でもせっかくの機会を逃すのももったいないと思います。この助成金を使って海外に研究成果を発表できる機会が一つでも一人でも多くあるといいと思いました。

- 1) Kawazoe Y, Miyamoto K, Morimoto T, Yamamoto T, Fuke A, Hashimoto A, Koami H, Beppu S, Katayama Y, Itoh M, Ohta Y, Yamamura H; Dexmedetomidine for Sepsis in Intensive Care Unit Randomized Evaluation

(DESIRE) Trial Investigators. Effect of Dexmedetomidine on Mortality and Ventilator-Free Days in Patients Requiring Mechanical Ventilation With Sepsis: A Randomized Clinical Trial. JAMA. 2017 Apr 4;317(13):1321-1328. doi: 10.1001/jama.2017.2088. PMID: 28322414; PMCID: PMC5469298

- 2) Kawazoe Y, Miyamoto K, Miyagawa N, Ohta Y, Yamamura H, Kimura T, Toyoda Y, Kyo M, Sato T, Kinjo M, Takahashi M, Maruyama J, Fukushima K, Matsuura H, Murata S, Okazaki T, Sakurai T, Suzuki T, Hanajima T, Takahashi G, Morimoto T. Polymyxin B Hemoperfusion for Patients With Septic Shock Requiring High-Dose Norepinephrine: A Multicenter Prospective Cohort Study. Crit Care Explor. 2025 Sep 22;7(10):e1320. doi: 10.1097/CCE.0000000000001320. PMID: 40981486; PMCID: PMC12456497